

仲町小 学校だより



メールアドレスe-mail : nakacho-e@saitama-city.ed.jp

ホームページアドレス<http://nakacho-e.saitama-city.ed.jp/>

すくすく農園

校長 河野 秀樹



「下の方のはっぱがハートのような形でかわいかったです。すごく小さなえから、大きくなるのがたのしみです。よく水やりをしてきゅうしょくに出るときには、ちょっとじまんげになりそうです」

「ヨーロッパやさいのあじが気になりました。どんなあじなのかたしかめてみたいです」

2年生は9月12日に生活科の授業で農家の人の指導を受け、すくすく農園でヨーロッパ野菜を植えました。そして、11月24日と27日に「カリノーケール」を収穫しました。栄養士の会田さんは「苦みがあるのでキーマカレーの具に入れるのがよいだろう」と考え、27日(月)の給食で全校児童がいただきました。農園では、ほかに「カーボロ・ネロ」や「カリフローレ」も育てています。なぜ、さいたま市でヨーロッパ野菜が作られるようになったのでしょうか。さいたまヨーロッパ野菜研究会の福田さんの講義の中で、以下のような理由を聞くことができました。

- ① さいたま市にはイタリア料理やフランス料理などの店が300軒以上ある。
- ② さいたま市は、パスタやチーズなどの一人当たりの消費量が全国でもトップクラスである。
- ③ 海外に修行に行っていたシェフが、使いたいヨーロッパの野菜を手に入れるのが難しい。
- ④ さいたま市ではもともと小松菜などの葉物野菜の生産が盛んで、栽培ノウハウがある。
- ⑤ さいたま市に種苗会社や卸売会社がある。など

あおぞら学級は、7月に農家の人の指導でバケツにくわいを植えました。くわいは、大きく長い芽をつけた姿から「めでたい」「芽が出る」などと言われ、縁起物とされています。酷暑の中では育てるのが難しく、数が減ってしまいましたが、職員玄関の前と体育館入り口のところでも育っています。子どもたちは給食に出るくわいが大好きですが、実際に見る葉の形や大きさには驚いていました。12月上旬にくわいを掘り出して収穫する予定です。

3年生は校庭北側の花壇に小松菜を植えています。小さな芽がたくさん出てきて、毎日少しずつ大きくなってきています。1学期の社会科「学校のまわりの様子」の学習で、仲町小学校の周りには住宅地や公共施設が多くあり、大きな道路では交通量も多いことが分かりました。また、学校の西側にも足を運び、坂になっていることから高い土地と低い土地があり、低い土地では田畑が広がっていることにも気付きました。社会科副読本「わたしたちのさいたま市」のP.56「さいたま市でつくられている主な作物」の分布図には、野菜の凡例で「小松菜」「ヨーロッパ野菜」「くわい」などが絵で示され、主に市の東部で作られていることを学びます。

日頃、田畑を目にすることや土を触る機会が少ない本校の子どもたちにとって、豊かな感性を育むためにも、さいたま市の農家の方に直接教えていただきながら苗を植え、諸感覚を働かせながら育てることは貴重な経験です。「私たちの食生活は生産者を始め多くの人たちの苦労や努力に支えられているんだなあ」「さいたま市で育てられている農産物を意識して食べていきたい。これからもずっと作り続けてほしい」などの思いが醸成されていくことだろうと思います。家族と食事に行ったお店や買い物に行ったスーパーで「これさいたま産だね。さいたまヨーロッパ野菜だよ」と言った会話が聞かれ、食への関心が高まり、地元への愛着が深まることを期待します。

12月の給食では「小松菜」「ヨーロッパ野菜」「くわい」が出ます。美味しく、楽しくいただきます。